



プラスチックごみを減らそう テイクアウトにリユース容器を義務化

8月から里帰りし、改めて日本はプラスチックであふれていることを実感しています。特にスーパーの食材やお惣菜はプラスチックの包装材料が使われ、お寿司も色とりどりのプラスチックの容器に上品に並べられています。少し傾けると半分ぐらい空白ができたり、あげ底になっている。最初から詰めて売ればいいのと思います。

日本のスーパーではトレーや牛乳パック、ペットボトルなどを回収していますが、ドイツ人に言わせると「デポジットもかかっていないのにわざわざ洗って戻してくるなんて信じられない」とのこと。

私も日本人はまめだなと思っていましたが、普通の家庭ごみとして捨てるとその分ごみ処理代がかかるからです。実家のある長野県の村ではごみ袋が1枚45円ですから、プラスチック容器で満杯にするくらいなら洗ってスーパーに戻した方がいい。量が多いのできりがありません。

ドイツではペットボトルに25セント(約40円)のデポジットがかかっていますから返しに来ますが、野菜パックやチーズ、ヨーグルトなどの包装材料はもともと製造者責任なので所定の「ゲルベザック(黄色い袋)」に入れれば無料で処分できます。容器は処理・選別工場で洗浄するので、汚れていて構いません。

街中には50メートルごとにゴミ箱がありますが、そうでもしないとポイ捨てが

ひどいから。「日本ではゴミ箱がないので、みな持ち帰る」というと「日本人は真面目だな」とびっくりされます。

1ユーロ157円という円安のせいもありますが、日本はお惣菜やお弁当類が安く感じます。ドイツでは日本ほどお惣菜やお弁当は発達していません。10日以上持ちするまぜいサンドイッチや、ご飯かちかちのお寿司ぐらいしかなく、値段もけっこうする。反対に日本は至れり尽くせりで、欲しくなるものがいっぱいあるので困ります。

と、日本に来た感想をつらつら書きましたが、ドイツでは本格的にプラスチック削減をめざし2023年1月1日より、テイクアウトの食べ物や飲み物にリユース容器の使用が義務化されました。EU(欧州連合)の指針を受けて国内で法制化したもので、使い捨て容器は在庫としてあるものは使ってよいのですが、いずれ全面禁止となります。

コロナ禍をきっかけにドイツでも持ち帰りが一般的となり、容器のごみが大量に出ています。ドイツ政府によると、コーヒーなど温かい飲み物のカップは毎時32万個廃棄され、年間で街角のゴミ箱800万個分にのぼります。飲み物のリユースカップは、素材によっては500回以上使えるといい、資源の節約は二酸化炭素の排出削減となり、ひいては地球温暖化を防止して気候変動対策につながります。



食事の際に出る包装材料のごみを視覚化

連邦環境省はおおよその目安として、リユース容器は最低10回、できれば25回以上使うこと、また自前の容器を持参することも勧めています。

しかしリユース容器を使うのはなかなか大変なようです。店にとっては容器の購入に初期投資が必要なおうえ、管理に手間がかかります。デポジットはカップで2ユーロ程度が主流ですが、食事の容器は蓋つきで3~7ユーロと値段もまちまち。観光客にとっては返しに行くことが難しいこともあるでしょうから、全国で統一された運用方法が求められます。

それにしても便利さをどこまでも追求するのが日本社会で、ばっさり合理化するのがドイツかも。日本では宅配の再配達の問題となっていますが、ドイツでは配達は一度きりで、留守だと翌日以降郵便局などに取りに行きます。日本の便利さは快適ですが、他人や地球に負担をかけない程度にすべきでは。毎年里帰りするたびに、日本は極端な方向に進んでいる気がして、少々心配になります。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

AKIRA の 成長記録

明はドイツでは夏休み明けから11年生(高2)ですが、飛び級しました。大学入学を目指さない学校の子たちは10年生(高1)で卒業となり、職業学校に通うことになりました。そのため大学入学を目指す子たちがギムナジウム校に編入すると、学習レベルをその子たちにあわせるので復習が多くなります。だから11年生は留学に最適。

成績が一定以上だと飛び級できるので、明のクラスでは24人中3人が飛び級して留学しています。半年以内なら飛び級も留年も必要ないので、さらに4人が留学。カナダやアメリカなど英語圏が多いのですが、1人はオランダ、明は半年ずつ日本とフランスへ。留学幹旋業者を通して

ホームステイ先を見つけ、現地校に通う子がほとんどです。

オランダに行ったAは、授業はオランダ語なのでやっと少し理解できるようになってきたけれど、しゃべるのはまだまだとのこと。バスケットボールをしたくてアメリカに行ったEは田舎の学校で、生徒たちの団結が強く楽しいそうです。明は長野県松本市にある公立高校に通い「先生がきちんと説明してくれるからわかりやすいし、教室が静か。知識を得るということがどういうことか初めてわかった」と感激しています(ただ単に典型的な日本の教え方なんだけど)。

また「日本の高校生って、ほんとと高校生って感じなんだよな」とも。どうもドイツで日本好きのクラスメートがテレビやアニメで見て想像する「日本の高校生活」そのまんまの世界だと言いたいようです。